

日本災害食学会 2025年度学術大会

首都直下地震によるライフライン途絶を想定した 宿泊訓練と事業所備蓄に対する意識の変化

○須藤紀子¹、渡辺あづき¹、佐藤寛華²、島津海晴¹

¹お茶の水女子大学生活科学部食物栄養学科、

²お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科

本研究はダイオース記念財団の助成を受けて行われました

背景

勤務時間中に災害が発生した場合…

帰宅困難



非常時対応



職場に泊まり込む



背景

飲まず食わずで、睡眠もとらず
事業を継続することは不可能



食事



睡眠



衛生

災害時の労働環境は
BCPの実行のために重要

研究目的

宿泊訓練を通して
災害時の労働環境を支えるために必要な備蓄を知り、
事業所備蓄に対する意識を向上させる

方法

宿泊訓練の概要

実施日時：2024/7/11(木)17時～12(金)11時

実施場所：民間企業A社のB事業所の会議室

参加者：男性社員16名＋女子学生 2名＝計18名

【A社の事業内容】

事業所向けコーヒー・ティーサービス、ボトルウォーターサービスなど
職場環境を改善するサービスを提供

方法

スケジュール



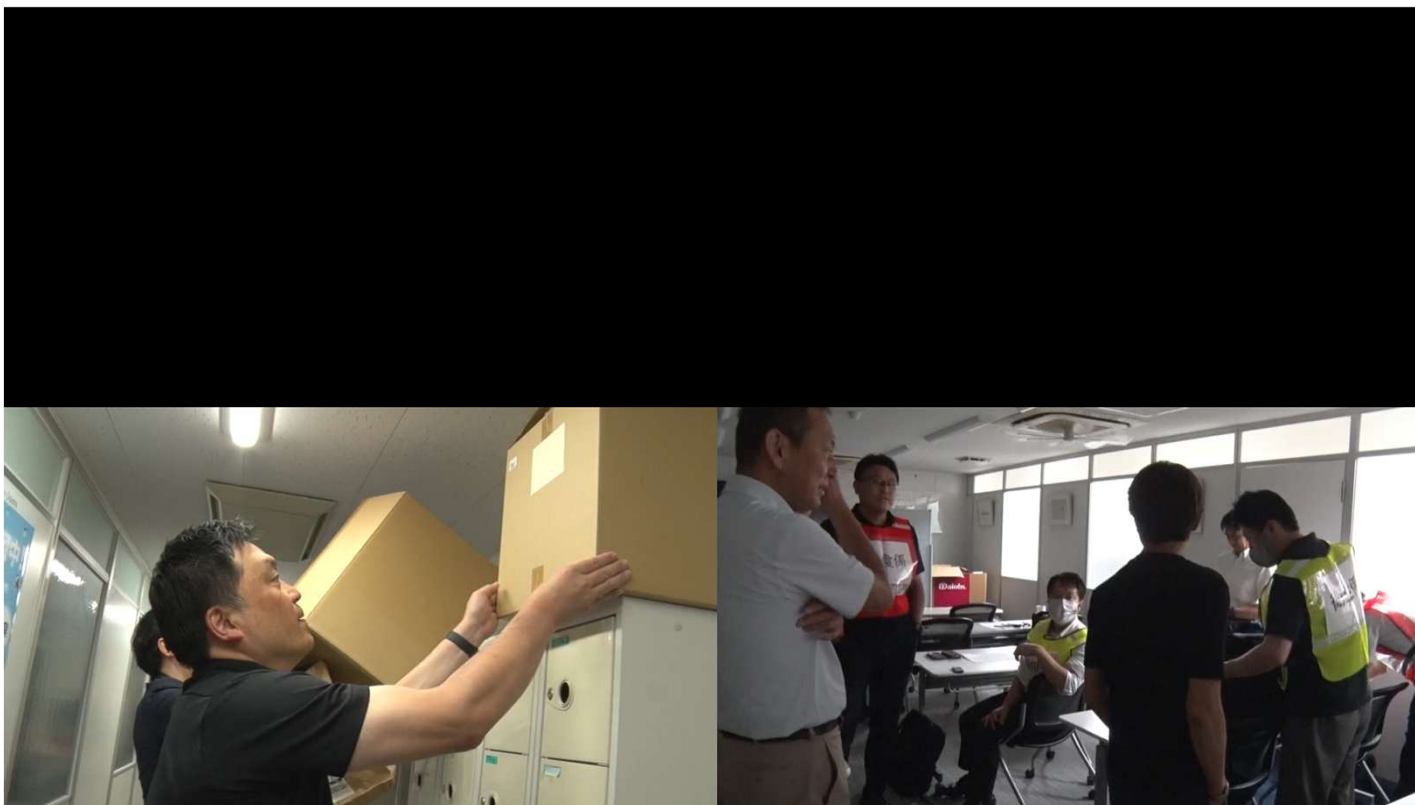
	1日目(7/11)	2日目(7/12)
17:00	受付	7:00 起床・寝具片付け
	事前アンケート	7:30 原状復帰 (照明器具・トイレ撤収)
17:30	オリエンテーション /役割決め	7:45 朝食/ゴミ計量
19:00	発災(訓練開始)	8:00 原状復帰 (電気・水道復帰)
	セッティング・ 備蓄品の運び出し	8:15 意見交換
19:55	④夕食 食事片付け	9:40 昼食準備
20:30	⑤就寝準備	10:10 昼食・食事片付け
22:00	完全就寝	事後アンケート記入 /ゴミ計量
		11:00 訓練終了



3食目の
備蓄食

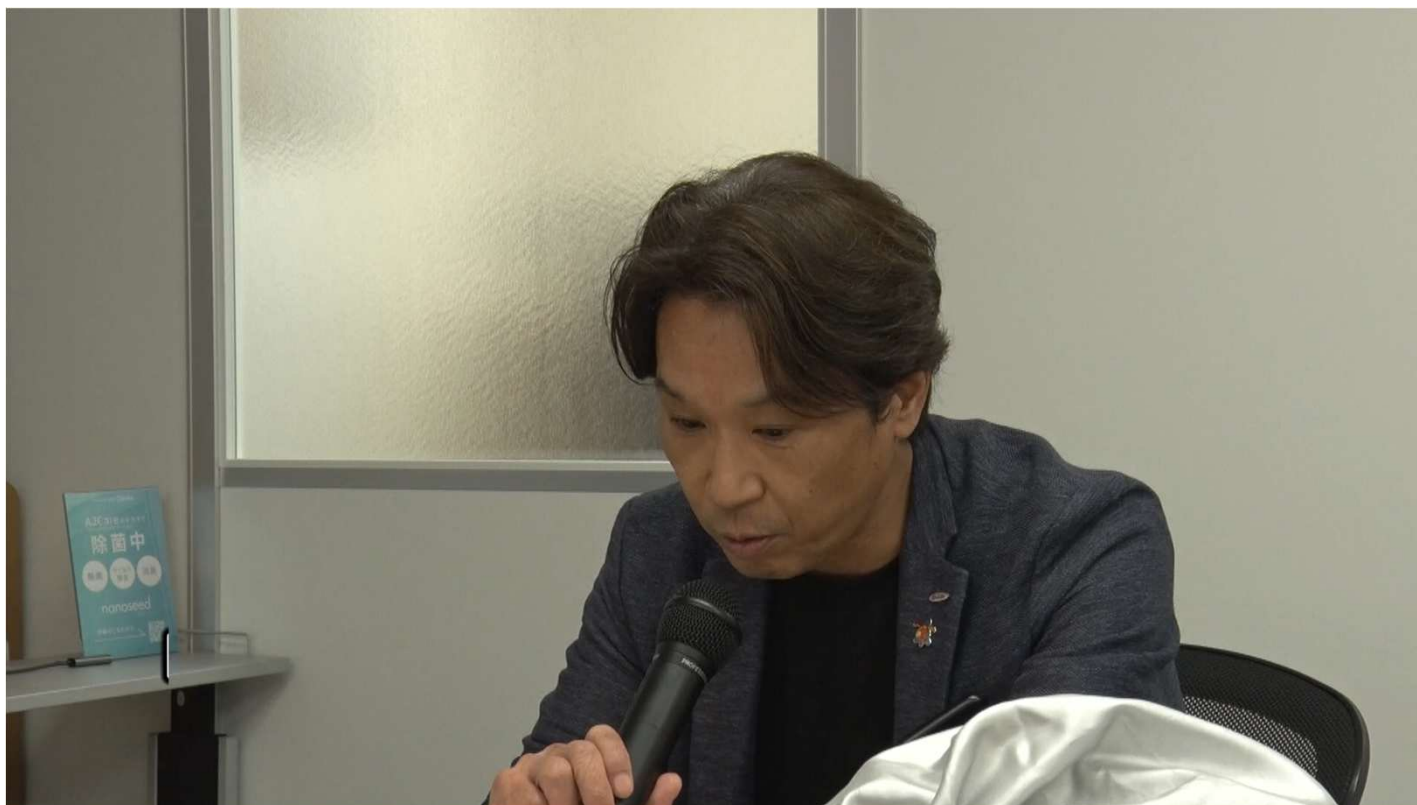
宿泊訓練を通して分かったこと①

まず必要になるのは照明

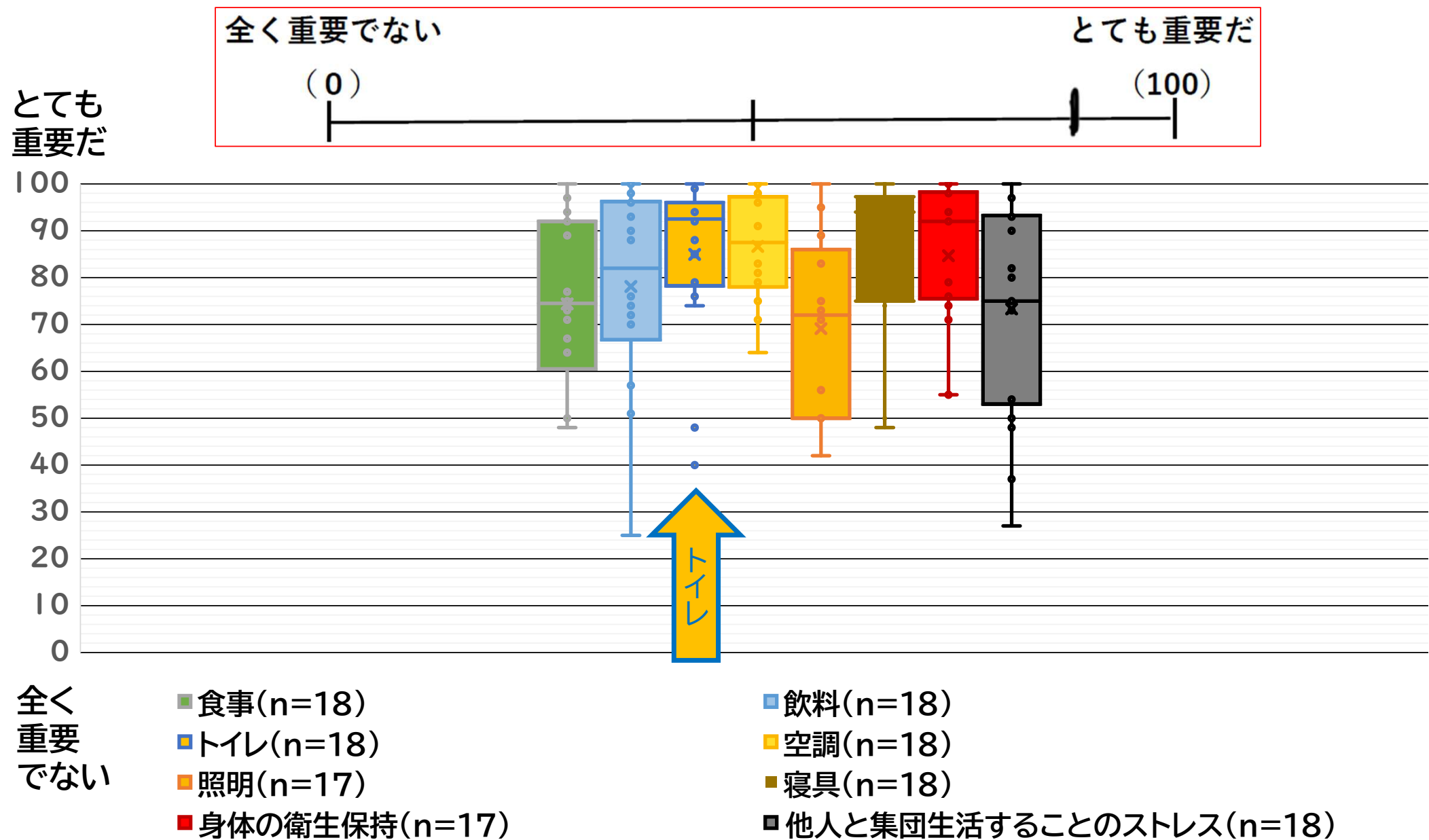


宿泊訓練を通して分かったこと②

みんな携帯トイレを使いたくない



訓練後のアンケート結果より



B事業所の寝具の備蓄：毛布とエアークッション

(枕は誰もあることを知らず、使われなかった…)

(腰痛等が生じて責任を問われないために…)

訓練用に購入したもの



7個

3069円



2個

1859円



3個

1309円



7個

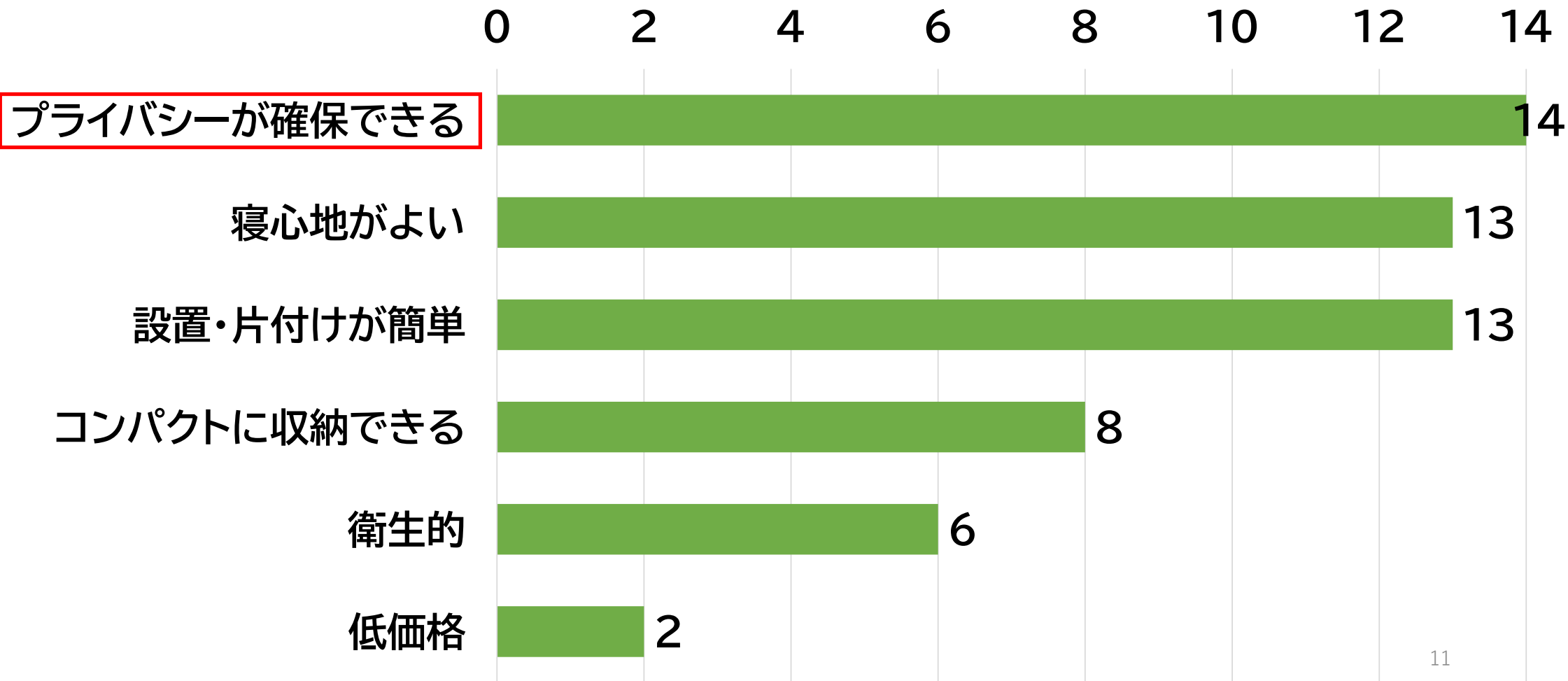
1078円



段ボールベッド
間仕切りなし：4台
あり：2台

訓練後のアンケート結果

寝具を選定する上で重要だと思うこと(n=18, 複数回答)



宿泊訓練を通して分かったこと③

夜も一人になれないのはつらい…**集団生活のストレス**



宿泊訓練を通して分かったこと④空調の大切さ

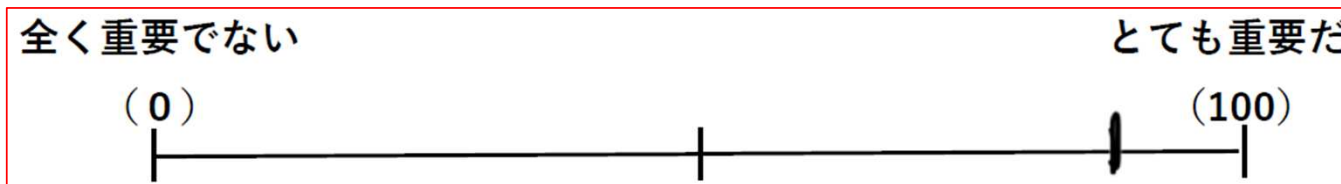
(今回は熱中症予防のために夕食を食べる時だけ停止したけど…)

空調をとめると暑かった

・熱中症や生命にかかわる

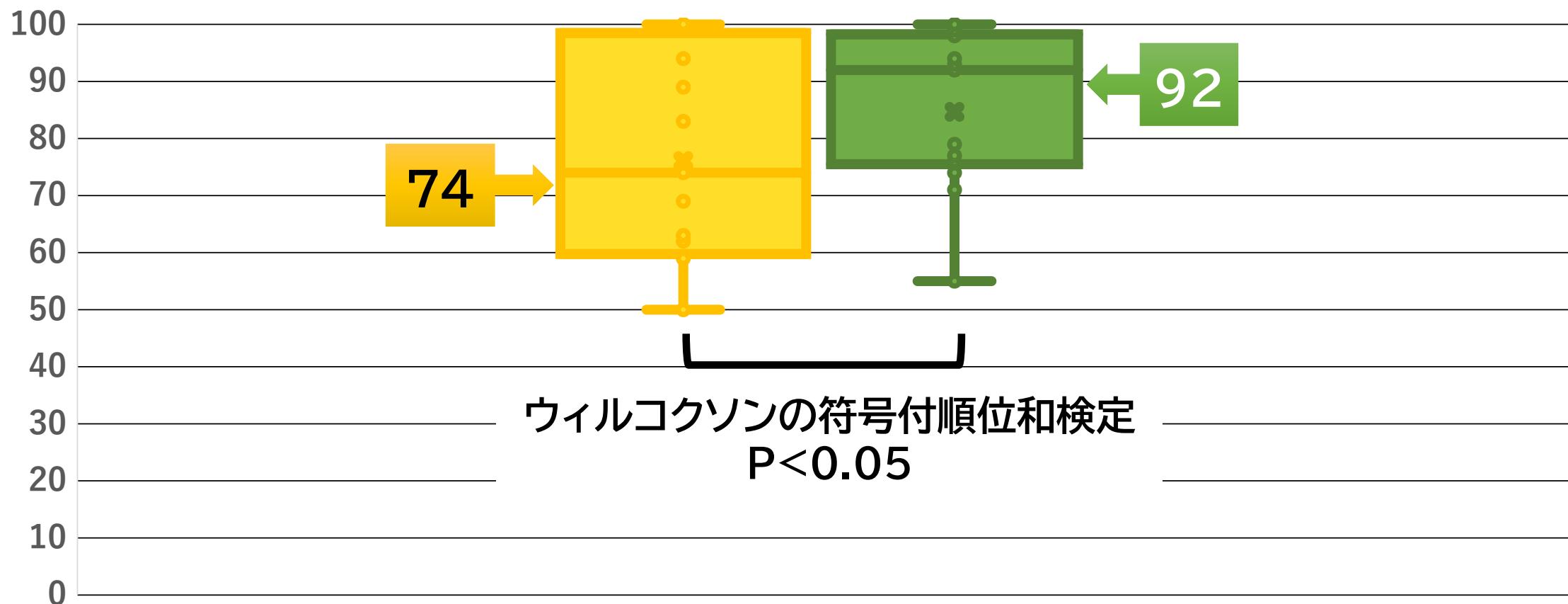
電気・水道は全て使用禁止にした
本格的な訓練

不便さ・不快さは経験して初めて実感できる



あなたにとって、災害時の**身体の衛生保持**は、どの程度重要ですか？

とても
重要だ



ウィルコクソンの符号付順位和検定
 $P < 0.05$

■事前アンケート(n=16) ■事後アンケート(n=18)

全く
重要でない

宿泊訓練を通して分かったこと⑤

回を重ねるごとに手際が良くなる

訓練の効果(1食目:夕食)



訓練の効果(2食目:朝食)



まとめ

- 災害対策は災害時に遭遇する状況を**どれだけ具体的にイメージできるか**にかかっている
- しかし、**訓練前に想像で回答した結果**と**訓練で経験した後**では、**照明、寝具、身体の衛生保持**の重要度が有意に上昇
 - ⇒ **不便さ**や**不快さ**は経験してみて、初めて実感できる
 - ⇒ **実動訓練**の重要性(いかに災害時に近い状況を作り出せるかがカギ)
 - ⇒ 動きもスムーズになる
- **トイレの重要度が最も高かった**が、現在、携帯トイレの備蓄なし
 - ⇒ 必要性を実感し、「本社主導で用意したい」と**12月の振り返り**で発言あり
- 備蓄に対する意識の向上が確認できた